

2月議会論戦



質問全文



取り上げたテーマ
除排雪について
金沢スタジアムについて
国民健康保険料について
金沢方式について

保険料の引き上げは おかしい！



新年度からどの保険料にも子ども・子育て支援金が上乘せされ、金沢市の国民健康保険の場合は加入者約7万人に総額約2億円、1人平均年間約3000円の負担増（2026年度）となり、3年かけてさらに増えていきます。18歳未満は免除ですが、子育て世帯を含めすべての世帯で保険料は増えます。

私は「年収600万円の子育て世帯でも年間約1万2000円の負担増となり、もともと重い国保料がさらに増える」と指摘し、「保険料は本来医療費のためのもので、子育て支援をするなら国は別の財源を確保すべき」として、国に制度中止を求めるよう求めました。

市長は「少子化が危機的な中、社会全体で子どもや子育て世帯を支えるため国が導入する制度」と説明し、制度廃止を国に求める考えは示しませんでした。

材木分団の機械器具置き場について

私は、材木消防分団の機械器具置き場整備について「2025年度当初に計上されていた市の補助金4552万円が最終補正で全額減額され、事業が振り出しに戻った」と指摘しました。

「資材高騰により工事費が約2倍となり、地元と市の負担では対応できなくなったことが原因であり、『金沢方式』による整備では限界がある」として、「市の事業として地元負担なしで整備すべきだ」と求めました。また、住民説明の場に市が同席するよう要請しました。

市長は「整備が遅れることは残念だ」としつつ、「今後も地元と協議しながら整備が進むようできる限り支援する。金沢方式は住民自治を高める意義がある」と説明しましたが、「事業主体のあり方については今後の研究課題とする」と答弁しました。

消防局長は、「建設委員会などから相談があれば消防局として一緒に解決策を検討したい」と述べました。これに対し私は、住民説明の場に市が直接関わる必要性を改めて訴えました。

金沢スタジアム屋根落下の原因と対策について

屋根落下の原因と対策について

2025年12月、金沢スタジアムのバックスタンド屋根材（約200kg/枚）が落下する事故が発生しました。供用開始から2年未満、総事業費約80億円の施設で起きた事故に対し、私は原因究明と対策を求めました。

市は1月末に「設計風速32m/秒を上回る突風が屋根に吹き上げたことが原因」と説明しましたが、その根拠は気象台の風速計の観測値ではなく、北陸自動車道の風速計の観測値でした。

私は「建築基準に用いられてきた気象台の観測値ではなく、別目的の観測値だけで原因を断定するのは問題。設計や施工も含め、客観的に再検証すべき」と指摘しました。

市は「当時の気象状況や被害状況、設計・施工管理の状況などを総合的に勘案し、専門家の意見を踏まえ、突風と局所的な風圧変動が原因と推定」と説明を修正しました。

2.8億円で復旧・補強へ

市は約2億8千万円を計上し、復旧・補強工事を行う予定で、屋根材の接合部を強化し鋼材で連結することで耐風圧強度を約2倍に引き上げるとしています。

しかし私は「台風時の風速にも耐えられるのか疑問が残る」として、屋根付近に風速計を設置し検証を続けるよう提案しましたが、市は応じず、3/1から工事中にも関わらず利用を再開しています。

市民の命とくらしを守る除雪を！！

1月末の大雪では積雪64cm、観測史上最大の6時間降雪量37cmを記録しました。委託業者や職員のみならずには昼夜問わず除雪にあたっていただきました。一方で除雪中に9人の市民が負傷し、その多くが高齢者でした。高齢化や空き家の増加により地域の除雪が命に関わる状況になっています。市民の命とくらしを守るため除雪についてさらなる改善を求めました。

除雪路線になる方法は？

金沢市の除雪路線は市道の4割に限られません。私は、どうしたら除雪路線に選ばれるのか質問しました。

市は「除雪業者やオペレーターに限りがあるため路線の大幅拡大は難しい」としたうえで、「新たに指定する場合は町会からの要望を受け、委託業者の確保や道路状況、既存路線との調整などを総合的に検討し、10月下旬の除雪対策会議で決定している」と説明しました。

除雪路線の拡充を！

R6年度	福井市	金沢市
市道延長	2186.8km	2202.2km
除雪延長	1860.2km	920.2km
除雪率	85.1%	41.8%
消雪延長 ※除雪延長に含む	83.7km	239km

私は、福井市は市道の85%が除雪路線であることを紹介し、「金沢市でも職員体制や制度を拡充すれば拡大できるはずだ」と指摘。「市には道路管理者として法的に除雪を行う責任があり、市民の負担軽減のため除雪率の大幅な引き上げに取り組むよう」市長の明確な姿勢を求めました。

市長は「金沢市は昔からの街並みが残り、業者やオペレーターにも限りがあるため、一気に大幅拡大するのは難しい」と説明し、「GPSを活用した除雪管理システム導入などにより作業の効率化と体制強化を進めている」と答弁しました。

※2021年3月議会で私の質問に市は「狭い道路、幅員4m以下で除雪車が入れない道路は市道2190kmのうち80km」と答えており、3.6%にすぎません。

歩道の除雪も拡充を



R7年度	市道
歩道除雪路線	166km（68カ所）
歩道除雪割合	27.8%

金沢市では、市が管理する歩道の除雪割合は27.8%にすぎません。私は、実施状況や今後の拡充について質問しました。

市は「歩道除雪は積雪が10cm以上でさらに降雪が予想される場合に、委託業者の自主判断で実施しており、今年1月下旬の大雪の際には68カ所のうち66カ所で除雪を行った」と答えました。「今後は大雪時のバックアップ体制の確立などにより、確実な歩道除雪に努める」としました。さらに除雪開始のタイミングを早めたり、歩道除雪路線を増やすことについては、今回の雪のような現状では難しいとしつつ、「業者の確保や担い手の確保に引き続き努める」と答弁しました。

消融雪の改善を

私は「市道の消融雪について不具合の声が寄せられている」として、特に田井・田上線で水の勢いが弱い状況の改善策を質問しました。また「民間の消融雪についても老朽化などで機能しないことがある」と指摘し、市道である以上、市の責任ある対応を求めました。

市は「田井・田上線は金浦用水を水源としているため水量不足やゴミ詰まりなどで不具合が生じており、新年度に取水口の修繕工事を行う予定だ」と答弁。市長は「民間消融雪については現在、施設の調査を終え分析を進めており、設備の老朽化や管理者の高齢化などの課題を整理したうえで、新年度も対策を講じていく」と考えを示しました。